

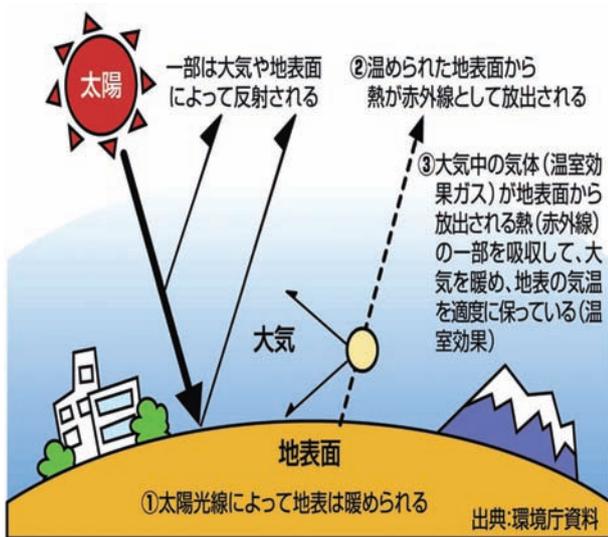
## 7. 多様な生物のゆりかご地球の環境を守る

### ～地球温暖化問題～

近年、人類の生存基盤を脅かす問題として、二酸化炭素等の温室効果ガスによる地球の温暖化、フロン等によるオゾン層の破壊、酸性雨などの地球規模の環境問題が生じています。

被害や影響が地球規模にまで広がる環境問題には、その他に熱帯林の減少、野生生物種の減少、砂漠化、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、開発途上国の公害問題などがあります。特に地球温暖化問題は異常気象の発生や生態系への深刻な影響が懸念されています。

#### ●地球温暖化とは



地球の気温は、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスによって平均気温15℃という生物が生きていくのに適した温度に保たれています。

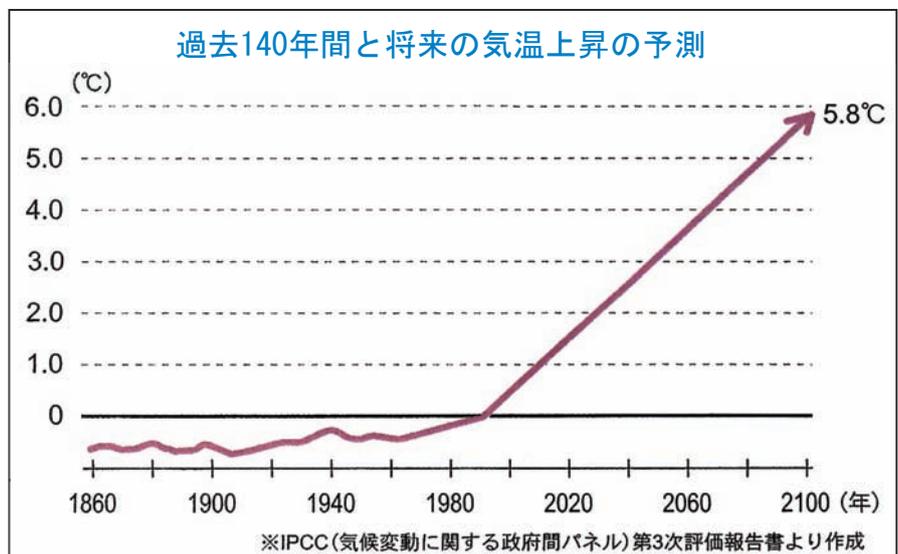
しかし産業や人間の活動が活発になり石油や石炭などの化石燃料の使用が増加してきたことによって、温室効果ガスの濃度が急激に増加し、太陽によって暖められた地球の熱が放出されにくくなると地球の気温が上昇してきます。

これが地球温暖化といわれる現象です。

#### ●温暖化の予想と影響

地球の平均気温は、この20世紀の100年間で約0.6℃上昇しており、今後も温室効果ガスが増え続けると、21世紀末までに平均気温が最大で5.8℃上昇し、氷河が溶けたりして、平均海面水位も最大88センチメートル上昇すると予測されています。

このまま温暖化が進行し、海面が上昇すると、私たちの健康や動植物などの生態系にも甚大な影響が生じることになります。



### 国土への影響



海面が上昇して陸地が水没したり、侵食される  
高潮や台風による被害の増加

### 健康への影響



日射病などの熱中症が増える  
マラリアなどの熱帯性感染症の発生

### 農作物への影響



温度上昇による農作物産地の変化  
気象・害虫・水資源の影響による収穫高の減少

### 生態系への影響



寒冷地帯の森林の消失  
動植物の種類の減少  
植生の変化

## ●地球温暖化を防止するための取り組み

地球温暖化対策の推進に向け、9年12月の地球温暖化防止京都会議において、温暖化の原因となる二酸化炭素等の温室効果ガスに対する先進国の削減目標が京都議定書として採択され、17年2月16日に発効することとなりました。

### 京都議定書の削減目標の概要

対象ガス	①二酸化炭素 ②メタン ③一酸化二窒素 ④ハイドロフルオロカーボン(HFC) ⑤パーフルオロカーボン(PFC) ⑥六ふっ化硫黄(SF <sub>6</sub> )
基準年	1990年(HFC、PFC、SF <sub>6</sub> は1995年)
目標期間	2008年から2012年
削減目標	先進国全体として、少なくとも5.2%削減する [国別目標] 日本：6% 米国：7% EU：8% ロシア：0% カナダ：6% 等
その他	1990年以降の植林等吸収源の取扱、クリーン開発メカニズム、排出権取引等について言及



千葉県地球温暖化防止活動推進センターによる講習会の様子

県では、京都議定書を踏まえた「千葉県地球温暖化防止計画」を定め、2010年度までに県内の温室効果ガス排出量を、1990年度に比べ6%減らすことを目標に、県民、事業者、民間団体、行政などが連携・協調して、各種施策に取り組んでいます。

地球温暖化防止に向けた取組の一層の推進を図るため、普及啓発活動の拠点となる「千葉県地球温暖化防止活動推進センター」の指定や地域における地球温暖化対策の推進のため一般県民の方を「地球温暖化防止活動推進員」に委嘱するなど、地球温暖化に対する啓発や防止活動の普及を進めています。

さらに、地域での温暖化対策の取組を推進するため「地球温暖化対策地域協議会」が設置され、国の委託による温暖化診断の実施などの取り組みも進められています。

また、県も自らの事務・事業による温室効果ガスの排出削減等を図るため「千葉県地球温暖化防止対策実行計画」を策定し、低公害車の導入や省エネルギーの推進などに取り組んでいます。



地球温暖化防止活動推進員による駅頭での温暖化に関するアンケートの様子

## ●八都県市省エネ型家電拡大キャンペーン

八都県市首脳会議（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市）では、省エネ製品の普及拡大を図り、二酸化炭素排出量の増加が著しい家庭部門の地球温暖化対策を推進するため、16年度の夏と冬に八都県市共通の省エネラベルによる「省エネ型家電拡大キャンペーン」を実施しました。

このキャンペーンは、家庭の省エネルギーを推進するため、販売店の協力を得て、製品本体等に家電製品の省エネ性能の違いが一目でわかる省エネラベルを表示し、消費者が家電製品を購入する際に、適切な省エネ情報を伝えて、省エネ型家電製品の普及拡大を図ることをねらいとしています。

概ね省エネ基準達成率100%以上の製品のうち、上位10%をAAA、次の40%をAA、残り50%をAで表示し、100%未満については、上位70%をB、残り30%をCという5段階に区分した相対評価で表示しています。

また、消費者がランニングコストを考慮した家電製品の選択ができるよう10年間の電気代を表示しています。

## ●地球温暖化を防止するための身近な取り組み

地球温暖化を防止するには、限りある地球の資源を「大切に、じょうずに」使うことを常に考え、地球にやさしいライフスタイルに変えていく必要があります。

地球温暖化防止のための行動は、地球環境を守るだけでなく、節約にもなります。

皆さんもできることから始めてみてください。



## 取組と省エネ効果の試算例

取組事例 (下段は試算条件)	削減量 (kgCO <sub>2</sub> /世帯・年)	節約金額 (円/世帯・年)
自動車の無駄なアイドリングはしない。 ----- 1日5分アイドリング時間を短縮、年間240日実施（計20時間相当）。	39	2,000
冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低くする。 ----- エアコン、冷房112日、暖房169日、各1日9時間使用する。	31	2,000
シャワーを1日1分家族全員が減らす。 ----- シャワー10L/分で3人。効率90%25℃の温度上昇を都市ガスで。水の削減分は含まない。	65	4,000

「全国地球温暖化防止活動推進センター ホームページ 『身近でできる取組』」より